

令和3年度 大田区立大森第一小学校

学力向上のための授業改善プラン

大田区教育委員会では、学習内容の定着状況を把握し、授業改善を図ることで、児童・生徒に「確かな学力」を身に付けさせるため、「大田区学習効果測定」を実施しています。小学校では、4・5・6年生について、国語・社会・算数・理科の調査を行いました。本校ではこの調査の結果や、普段の児童の様子をもとに、授業改善プランを作成しました。

□全体計画

調査の結果と結果からの改善策

□4年

□5年

□6年

児童の様子からの改善策

□1年

□2年

□3年

□体育

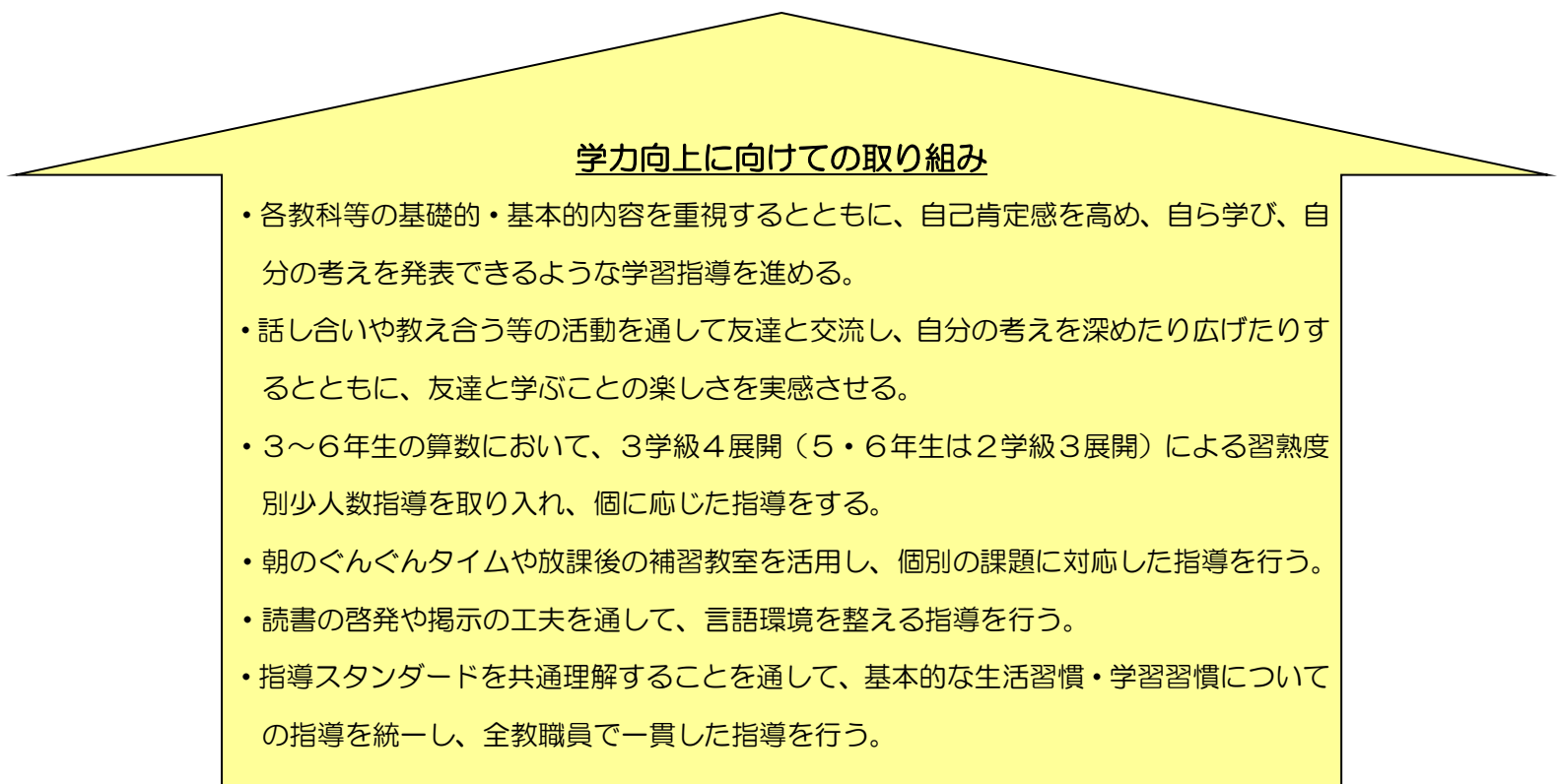
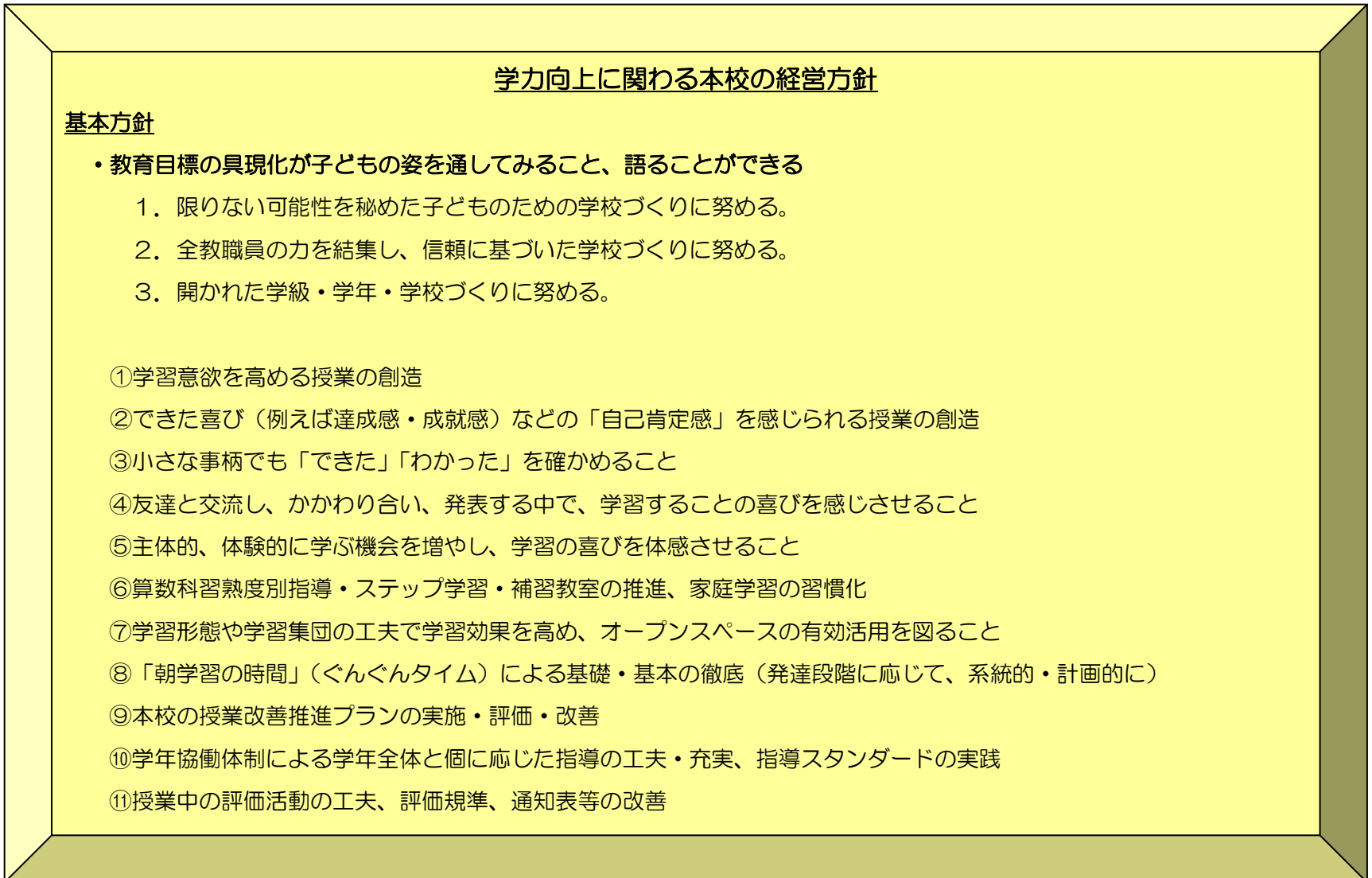
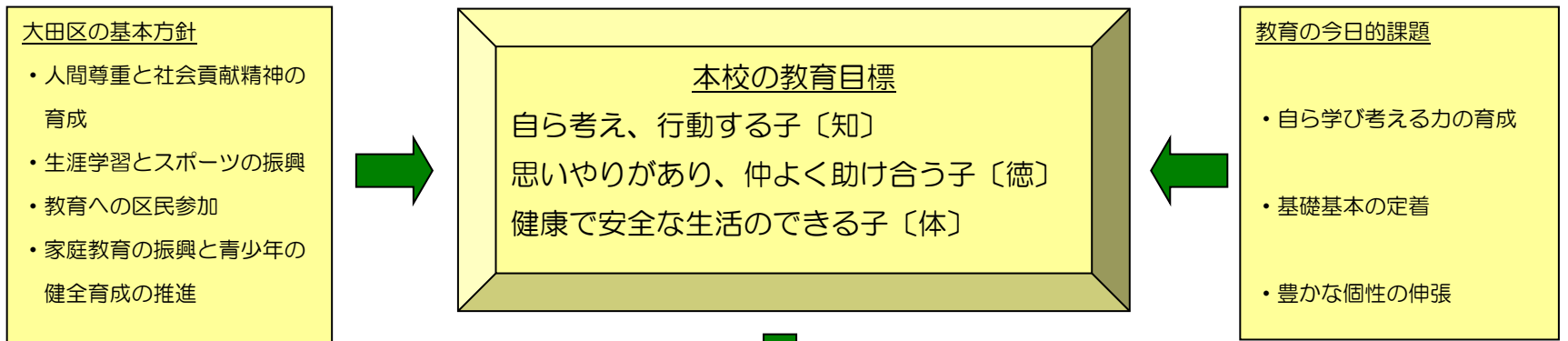
□音楽

□図工

□家庭



全体計画



大田区学習効果測定 調査結果と結果からの改善策

4年生

昨年度授業改善プランについての成果と課題

国語→読書タイムや国語の時間、タブレット学習（ドリル学習）を通して、文章を読む習慣を身に付けさせることができました。今後は、考えを書いて表現する力の伸長を図ります。

社会→自らの生活経験や調査活動を通して、地域を題材とした学習に取り組むことができました。今後は、必要な情報を収集する力や情報をまとめる力の伸長を図ります。

算数→ぐんぐんタイムや少人数での算数授業を通して、一人一人が分かる授業を目指しました。個別の支援体制の更なる充実を図ります。

理科→全体的に、目標値を下回っています。今後は、理解をより確かなものにするために、児童が自ら目的、問題意識をもって意図的に観察・実験に取り組めるように授業改善に取り組んでいきます。

I 調査結果の概要

△：正答率の平均が目標値を上回った教科・観点

≡：正答率の平均が目標値と同程度の教科・観点

▽：正答率の平均が目標値を下回った教科・観点

教科	国語			社会			算数			理科		
全体	▽			▽			≡			▽		
観点別	▽	▽	▽	▽	▽	▽	≡	≡	≡	▽	▽	▽
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

1 教科全体

算数の正答率は目標値を上回っていますが、国語・理科・社会については目標値を下回りました。

2 観点別

各教科の設問を、教科ごとに3つの観点に分けて集計した結果です。国語と算数では、「知識・技能」と「思考・判断・表現」等が目標値を上回りました。社会と理科は、3観点とも目標値を下回る結果でした。

II 教科ごとの授業改善プラン

〔国語〕

- 既習の漢字を使う習慣を身に付けられるよう指導します。また、新出漢字学習の際には、漢字の成り立ち等を指導することで漢字習得の定着を図ります。
- 文章を構成する要素（主語と述語等）の関係や性質を確認しながら文章の内容を正しく捉えられるよう指導します。
- 文章を書く経験を増やしていきます。「指定された長さで書く」、「内容の中心を明確にして、事実を伝える文章を書く」、「内容の中心を明確にして、自分の考えを書く」など、様々な条件で文章が書けるよう指導します。

〔社会〕

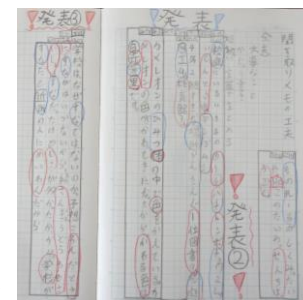
- 問題意識をもって主体的に学ぶ力を身に付けることが今後の課題です。
- 身近な資料を提示し、適切に情報を読み取り問題が解決できるようにします。
- 社会科の「考え方」を働かせることができる問題を設定し、思考力・判断力・表現力の育成を図ります。

〔算数〕

- 「大きい数・分数・小数」、「円と球・三角形」の内容に関するつまづきが多く見られました。
- 文章題の問題場面を数直線や図に表したり、立式したりする活動を繰り返し行い、表現力を高めていきます。
- 習熟度別学習を推進し、個に応じた課題に取り組ませます。

〔理科〕

- 「問題→予想→実験・観察→結果→考察」という学習過程を通して、根拠を明らかにしながら自分なりに考えをもち、確かめ、自力解決する力の育成を目指します。
- 体験や生活との関連を確認するなど、実感を伴った学習によって理解を深められるようにします。
- スモールステップで学習内容を整理し振り返る時間を設定し、学んだことを確実に知識として身に付けられるように指導していきます。



昨年度授業改善プランについての成果と課題

国語→自分の考えを表現する力や言葉の意味理解を身に付けることが課題です。今後は、自分の考えを分かりやすく書いて表現する場面を意図的、計画的に設定したり、国語辞典を使って言葉の意味や語彙力を高めたりすることが出来るようにします。

社会→全体的に目標値を下回りました。児童の興味・関心を喚起する資料や動画を導入し、タブレット端末を調べ学習にも積極的に活用します。社会的事象を時間軸や空間軸、相互関係などに着目し、特色や相互の関連、意味を多角的に考察する力を養います。リーフレットや新聞などで表現し、地域社会の一員としての自覚を促せるような学習を目指します。

算数→ぐんぐんタイムや補習教室を通じて、学習内容の定着を図りました。今後は、自力解決の場面で、既習事項の活用や図や表などを用いて表現する力を高めたり、友達の考えを比較・統合したりする視点を与えるなど、学びの充実を目指します。

理科→観察・実験の技能や表現の力を高めるために、「問題→予想→実験・観察→結果→考察」という過程を通して学習を進めることができました。実体験をさらに積み重ねて、豊かな知識や深い理解へとつなげていきます。

I 調査結果の概要

△：正答率の平均が目標値を上回った教科・観点

≡：正答率の平均が目標値と同程度の教科・観点

▼：正答率の平均が目標値を下回った教科・観点

教科	国語			社会			算数			理科		
全体	≡			▼			△			≡		
観点別	≡	≡	≡	≡	▼	▼	△	△	△	≡	≡	≡
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

1 教科全体

教科全体としては、社会の「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」に目標値を下回りました。算数は、すべての観点において目標値を数ポイントですが上回っているため、基礎的・基本的な内容が身に付いてきていると考えられます。

2 観点別

各教科の設問を、教科ごとに3つの観点に分けて集計した結果です。国語と理科に関しては、目標値とほぼ同等ではありますが、特に社会は「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」で大きく目標値を下回っているため、重点的に学力向上のための手立てを講じる必要があります。

II 教科ごとの授業改善プラン

〔国語〕

- 読み取りの力と、要約する力に課題が見られるので、段落や要点を考えながら、ポイントをおさえて読み取る力を身に付けられるようにしていきます。
- 学習した新出漢字や熟語などを、日常のノートや作文で積極的に活用することを通して、確かな知識として定着するようにしていきます。



〔社会〕

- 教科書の写真をノートに貼れるように配布することで、自分なりに工夫したノート作りをできるようにしたり、デジタル教科書の動画を効果的に活用したりすることで、より関心・意欲をもって学習に取り組めるようにする。
- 教科書や地図帳、資料集を意図的・計画的に活用し、グラフや図表、写真から明確に読み取れることや、その社会的事象の背景を考えて分析したり、自分なりの表現でまとめたりできるようにします。

〔算数〕

- 視覚的に分かりやすい教材を工夫したり、問題を児童に身近なものにするなど工夫したりし、児童がより興味・関心をもって課題に取り組めるようにします。
- 習熟度別指導を大いに活用し、児童にあった学習の進度や課題を意識して、基礎・基本となる学力の定着をさせます。
- 公式・数直線・計算のきまりなどを繰り返し復習して定着できるようにし、毎時間、確認しながら学習を進めていきます。

〔理科〕

- 実物や実際の映像、十分な実験道具や実験・観察環境などを準備し、児童一人一人が実験・観察の「必要性」「有用性」を感じ、自分の学習という実感をもって学習に参加できるようにしていきます。
- 単元の終末で学習内容を整理し振り返るノートまとめの時間を設定し、学んだことを確実に知識として身に付けられるように指導していきます。

昨年度授業改善プランについての成果と課題

- 国語→全ての観点で目標値と同程度となりました。ただ、漢字を正しく書いたり、説明文を読み取ったりする点で、数値が低くなっているため、日ごろから漢字を定着する活動を取り入れたり、段落構成を正しく理解させたりする活動を授業の中で取り入れ、改善に努めていきます。
- 社会→特に「資料に着目して、様々な特色や背景を記述で表現する」という問題で目標値を下回っています。ICT機器を用いて画像や動画を活用したり、あらかじめ資料を配ってノートに貼らせたりするなどして、児童の興味・関心を高めるとともに、自分の考えを持つ習慣を多く設定した授業づくりに取り組んでいきます。調べたり、話し合ったりしたことから、自分なりに考える学習活動を行います。
- 算数→「全ての観点で目標値と同程度となりました。ただ、「知識・技能」では、低い値が見られるため、基礎基本を学んだ後は、繰り返し演習問題や、復習プリントを通して、基礎的な知識・理解の定着を図ります。
- 理科→全ての観点で目標値と同程度となりました。ただ「知識・技能」では、低い値が見られるため、実験活動を丁寧に行い、使用した実験器具や、実験方法などを明確にし、基礎的な知識・理解の定着を図ります。

I 調査結果の概要

- △：正答率の平均が目標値を上回った教科・観点
- ≡：正答率の平均が目標値と同程度の教科・観点
- ▼：正答率の平均が目標値を下回った教科・観点

教科	国語			社会			算数			理科		
全体	≡			≡			≡			≡		
観点別	≡	≡	≡	≡	≡	▼	≡	≡	≡	≡	≡	≡
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

1 教科全体

昨年度（5年）との経年比較では、算数・理科で成長が見られます。算数は、観点によって課題がありますが、目標値とほぼ同等です。国語・社会の手立てを講じる必要があります。教科全体としては、目標値に至らない教科がありました。全体的に目標値に達しているため、成果と課題に記載した内容をもとに、少しでも数値を上げられるよう、指導していきます。

2 観点別

各教科の設問を、教科ごとに3つの観点に分けて集計した結果です。国語、算数、理科の「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」では、平均となる目標値に達しています。しかし、社会の「主体的に学習に取り組む態度」では、目標値を下回る傾向が見られ、今後の重点課題として、指導の改善に取り組んでいく必要があると考えます。



II 教科ごとの授業改善プラン

〔国語〕

- ・既習した漢字を適切に書いたり、読んだりする活動を通して、確実に習得させます。
- ・説明文の文章全体の構成を捉えるために、段落ごとの内容の理解を、確実に図ります。

〔社会〕

- ・デジタル教科書などの画像や動画を活用することで、関心・意欲を高めるようにします。
- ・資料集などの補助教材を使用する中で、必要な情報を集め、適切に活用できるように指導します。
- ・「つかむ」「調べる」「まとめる」「ふかめる」という問題解決的な学習方法により、具体的知識を確実に習得させます。

〔算数〕

- ・大田区ステップ学習、補習教室、家庭学習、学習カルテを活用し学習内容の確実な定着を目指します。
- ・一人一人に応じた習熟度別編成を行うことで、進んで学習に取り組める環境づくりを行います。

〔理科〕

- ・「問題→予想・仮説→実験・観察→結果→考察→新たな問題」という学習過程を通して、自分なりに考えをもち、確かめ、自力解決する力の育成を目指します。
- ・単元の終末で学習内容を整理し振り返る時間を設定し、学んだことを確実に知識として身に付けられるように指導していきます。
- ・実験の活動を多く取り入れ、観察・実験におけるポイントについての理解を深めます。

児童の様子からの改善策

1年生

1学期の成果と課題

一斉指導のもと、課題を理解して学習する力、自分で考える力が身に付いてきています。平仮名の学習は音読と合わせて一文字ずつ進め、丁寧に書くこと、はっきりとした発音で読むことができる児童が増えました。生活科で活動したことを3文程度で書くことは、ほぼ全員ができるようになりました。苦手意識や表記の誤りがある児童もあり、個別指導が必要です。10までの数の合成分解を具体物の操作なしで思考できる児童が増えました。経験の差から数の処理に時間を要する児童もいるため、成果につながる繰り返しの学習を取り入れていきます。

国語

学年の実態

物語を読むことや話をすることを楽しみ、授業への参加は意欲的です。音読の宿題に毎日取り組むことで、言葉のまとまりを捉え、声の大きさや速さに気を付けて読めるようになってきました。平仮名の読み書きを正しくできる児童がほとんどですが、書き順・拗音・促音などを含む語や助詞「は・へ・を」を正しく表記することは未定着です。叙述から場面や登場人物の様子を正しく読むこと、主語と述語の関係を意識して文を書くことが課題です。

改善策

仮名遣い、拗音・促音の課題については、朝のぐんぐんタイムや宿題で継続して指導を続け、正しく読み書きができるようにしていきます。読書に親しませると共に、物語文や説明文の内容について話し合ったり、場面と場面のつながりを考えたりして、楽しみながら正確に読む力を身に付けていきます。



発表にも意欲的です。友達の話最後まで聞き、考えを繋いでいくことを大切にしています。

算数

学年の実態

1～10までの数を正確に数え、繰り上がりのない足し算・繰り下がりのない引き算を正確に計算できる児童がほとんどです。算数ブロックを用いたり指を使って答えを確かめたりする児童もいます。違いを求める引き算では、文章を読み、場面を具体的にイメージして立式することに個人差があります。

改善策

タブレットドリル、計算ドリルの活用と宿題で、繰り返し計算練習を行い、正確さ、速さを身に付けさせていきます。具体物や半具体物、図絵などの教具を用いたり、自分で身近なことを題材にした問題作りをさせたり体験的な活動を重視して学習を進め、計算の意味を考えるようにしています。



体験活動を多く取り入れ、発見や驚きから、学習を創造していく経験を積ませています。

生活

学年の実態

「見る、聞く、触れる、作る、探す、育てる、遊ぶ」の活動を楽しむことができている。自分の思いや願いをもって、活動に取り組む児童がほとんどです。一人一鉢育てているアサガオの生長に伴う変化を楽しみ、親しみをもって名前を付けて世話をしました。学校探検で他学年の教室で様々な生き物と出会い、ダンゴムシ、カブトムシ、カタツムリ、ザリガニ、カニなどを学級で育て、生き物に親しみました。学校探検で見つけたことやワクワクしたことを絵と言葉で表し、クイズを作成しました。発展的な活動としてクイズ屋さんを開き、自分の発見を紹介しました。学級、学年、異学年交流を実施し、校内の人との交流を深めると共に、先生や上級生への関心を強くもちました。身近な人々とのさらなる関わりに期待をもちます。

改善策

活動したことや体験したことを絵や言葉(文章)で振り返らせ、気づきを明確にしています。個々の気づきを全体で共有し、教師が価値付けすることで、さらに意欲を引き出し、活動を深めたり広げたりしていきます。



2年生

昨年度改善プラン成果と課題

基礎・基本の継続的な取組により、文章をはっきりと音読すること、字形の整った字を書くこと、繰り上がり・繰り下がりのある計算で10のまとまりを抽象的な操作で行い計算することができる児童が多くなります。異学年での交流やアサガオの栽培など直接経験を通じて、学ぶことの楽しさを感じ、人との関わりや自然に関心が高まっています。

基礎・基本が十分でない児童や人と積極的に関わることや生き物に苦手意識をもっている児童もいるため、昨年度の取り組みを継続します。基礎・基本を生かして、自分の考えを表現したり、友達の意見を聞いて自分の考えを広げたりする学習の積み重ねをして、思考力や表現力についても伸ばしていきます。

国語

学年の実態

音読は多くの児童が、はっきりと大きな声で読むことができます。登場人物の心情の変化に関しては、経験的に感じとることはできていますが、叙述を根拠にした理由を説明することは、十分ではない児童がいます。文章の構成を考えて正しく書くことはこれからの指導が必要な児童が多いです。文字を書くことについては、習得した漢字やカタカナを文章の中で使うことの習熟が必要があります。

改善策

物語の読解に関しては、場面の様子や登場人物の心情の変化について、叙述を根拠にして考え、互いに交流し、捉え方の違いを認めつつ深めていきます。説明文の読解では、文章の構成（始め・中・終わり）を意識して、書かれていることを正しく読み取る力を養うとともに、自分の作文にも生かします。作文は下書きや推敲の時間をとり、文章に間違いや漢字で書ける部分がないか確認するようにします。



「スイミー」の学習では、場面の様子や登場人物の行動を文章から読み取り、あらすじをまとめて書く学習をしました。

算数

学年の実態

基本的なたし算・ひき算の計算処理は多くの児童が習得できています。数を位ごとのまとまりとして算数的にとらえることや、長さや時刻と時間などの計測については、難しく感じる児童がいます。日常の現象を算数で学んだことと結び付けて捉える経験は少なく、文章だけでは状況を正しく想像できない児童がいます。

改善策

授業では、日常の現象を算数的に読み取ることを授業の導入や終末で意識的に行い、児童の生活と算数で学んだことをつなぎ、算数を学ぶ意味を感じさせていきます。問題作りを通して、文章題の場面を想像できるようにします。計測に関して、経験が不足していることから、生活科など他教科・領域で算数の技能として用い、確実な習得を図っていきます。



ICTを活用した学習や交流を行っています。

生活

学年の実態

人と関わることや自然に積極的に関わる児童も多くいる一方、苦手な児童もいます。トマトやキュウリなどの野菜の栽培、梅ジュースづくりや、トムロコシの皮むき体験などを通じて、自然体験をさせ、興味・関心を示す児童は増えてきています。

改善策

町探検などの活動について、1年生などに伝えることや一緒に活動することを通して、人との関わりを深めていきます。これまでの経験を振り返り、自分の成長を自覚し、学びに向かう力を涵養することをねらいとします。



ベランダの花壇では、キュウリとトマトを育てました。茎や葉、花、実などに着目しながら、世話をしました。

3年生

昨年度改善プラン成果と課題

基礎・基本の継続的な取組により、文章をはっきりと音読すること、字形の整った字を書くこと、繰り上がり・繰り下がりのある計算で10のまとまりを抽象的な操作で行い、計算することができる子どもが多くいます。友達との交流や、生き物の観察や飼育、栽培などの直接経験を通じて、学ぶことの楽しさを感じ、人との関わりや自然に関心が高まっています。

身に付いた基礎・基本を生かし、自分の考えを表現したり、友達の意見を聞いて自分の考えを更新したりすることを通じて、思考力や表現力を伸ばしていきます。

国語

学年の実態

文章を読み取る中で、感じたことや考えたことについて発言する姿が見られますが、根拠となる言葉や文をもとに説明することに課題があります。漢字の学習に意欲的に取り組み、丁寧に書こうとする児童が多く見られます。ですが、日常で習った漢字を使うことについては課題があります。

改善策

物語文や説明文の中で、心情変化などの読解に何を根拠として考えるのかを意識させ、叙述に基づいて自分の考えを説明できるようにします。また、自分の考えを友達と交流することを通して、互いの考え方の違いに気づき、内容への理解をさらに深めます。文章を書く場面では、既習の漢字が使えているか確認する時間を設け、確認をしながら進めます。



「きつつきの商売」では、場面の様子を想像したことを生かして、音読の仕方を工夫しながら読むことができました。

社会

学年の実態

区の様子や、私たちの暮らしに関わる仕事に関する社会的事象を比較・分類したり、関連付けたり、総合したりする学習に取り組んでいます。地図帳を活用し、資料から必要な情報を読み取る児童が多く見られます。問題解決的な学習のプロセスを理解し学習を進めていますが、考えを表現することに課題があります。

改善策

社会的事象の「見方」について指導し、資料から必要な情報を読み取り、適切に知識・技能の習得ができるようにします。比較・分類、総合、関連付けといった「考え方」を働かせることができる問題を設定し、思考力・判断力・表現力等の育成を図ります。振り返りを児童の言葉で表現できるように指導します。



季節ごとの生き物の成長や変化などを興味をもって観察することができました。

算数

学年の実態

たし算やひき算の計算処理は多くの児童が習得できています。わり算の場面に応じたあまりの処理の仕方、時刻と時間のもめ方については、難しく感じる児童が多くいます。

改善策

授業では、日常の現象を算数的に読み取ることを授業の導入や終末で意識的にを行い、児童の生活と算数をつなぎ、算数を学ぶ意味を感じさせていきます。



これまでの経験などをもとに、予想、計画、実験を行いました。実験方法や結果からどんなことが言えるのかなど、グループで話し合いながら、学習を進めています。

理科

学年の実態

生き物の観察や飼育、栽培などの直接経験を通じて、学ぶことの楽しさを感じ、人との関わりや自然に関心が高まっています。結果から何が考えられるか、何が言えるのかといった考察する力を伸ばすことが今後の課題です。

改善策

問題解決的な学習のプロセスを理解し、問題意識をもって主体的に学ぶ力を身に付けることができるように、対話の質を充実させます。生き物の観察や飼育、栽培などの直接経験の機会を充実させ、主体的に学ぶ力を更に伸ばします。

体 育

昨年度改善プラン成果と課題

全 体

体力づくりに必要な運動の機会を多く設定し、朝の時間の体育朝会や休み時間など、学校生活全体を通して体力向上につながる遊びや運動に親しむことができるようになりました。

低学年

ルールのある遊びを取り入れることで、きまりを守り、友達と楽しく運動することができるようになりました。


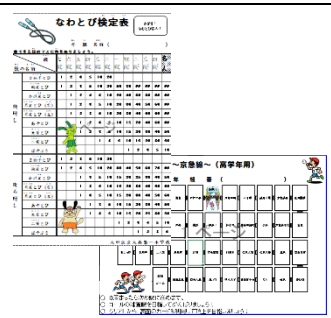

中学年

自分なりに運動の工夫を考え、技能や思考面を自己・他者評価することで、全体の運動技能が向上しました。

高学年

自己の課題を理解することで、運動に対する意識や取り組む姿勢が向上しました。

	児 童 の 様 子	改 善 の ポ イ ン ト
1・2年	<ul style="list-style-type: none"> 友達と協力して取り組むことができます。 運動に対して進んで取り組む児童が多数います。 運動のイメージがなかなかもてず、体の動かし方が分からない児童がいます。 運動の仕方やルールが分からず、協力して運動ができない児童がいます。 	<ul style="list-style-type: none"> 体ほぐしの運動や多様な動きをつくる運動を授業の中で計画的に取り入れ、基本的な体の動きを養います。 目指す動きを細分化し、段階を踏んで動きを体得できるようにしていきます。 ゲームを取り入れ、ルールを守ること、協力するよさを実感できるようにします。
3・4年	<ul style="list-style-type: none"> 友達の動きのよさに気づき、協力して取り組むことができます。 意欲をもって取り組むことができます。 運動の技能の差が大きいので、個に応じた指導の充実を図る必要があります。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動に対する興味・関心を高める工夫をします。 運動の「めあて」を提示し、身に付けさせたい運動の特性をつかませます。 作戦を立てるなど、チームで協力する時間を設けます。 場を工夫し、個人のめあてに沿った練習ができる指導の工夫をしていきます。
5・6年	<ul style="list-style-type: none"> 課題解決のために協力して作戦を立てたり、話し合いをしたりすることができます。 柔軟性・動きを持続する力が身に付いていない児童が多いです。 自分がどのような動きをしているかをイメージする力が弱い児童がいます。 自分の運動の力を見極め、課題を設定する力が身に付いていません。 	<ul style="list-style-type: none"> 体づくり運動を定期的に授業に組み込みます。 体力を高める運動を授業に組み込みます。1年間を通して取り組ませます。 映像や具体的な例を示し、視覚で認識させます。また、反復して動きを覚えさせます。 学習カードを使い、毎回の授業の課題設定をさせます。

	具 体 的 な 改 善 策	
1・2年	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの発達段階に応じた様々な動きを取り入れた体ほぐしの運動を月ごとに工夫します。 体育の学習の時間の基本的な流れを、「今まで学んだ動きの確認（基本の動き）→手本の運動を見る→その時間のめあてを把握する→全体練習→めあてに向かい一人ひとりの力に応じた練習」として、低学年のうちに取り組むべき運動の習得を目指します。 友達の動きを見て学ぶ時間を生かしながら、励まし合い、みんなで上達していく意識を育て、協力する力を高めます。 子ども達が運動に取り組むことができる機会を多く設定し、いろいろな動きを体験できるようにします。 	
3・4年	<ul style="list-style-type: none"> 「ランニングカード」「短なわカード」など児童が1年を通して運動に興味・関心を高められるような活動を増やします。 グループ活動・教え合いを授業に取り入れ、子どもが意欲を持って取り組めるようにします。 学習カードを充実させ、運動のねらいを理解して授業に取り組むことができるようにします。 グループ活動・教え合いを通し、友達と仲良く協力して活動しようという態度を育てます。 	
5・6年	<ul style="list-style-type: none"> 体づくり運動を計画的に授業に取り入れ、自らの体力を知り、体力を向上させます。 <ol style="list-style-type: none"> 体の柔らかさ及び巧みな動きを高めるための運動。 力強い動き及び動きを持続する能力を高める運動を授業に組み込みます。 学習カードを活用し、自分の力を知り、自分の課題を設定し、解決するための力を養います。 <ol style="list-style-type: none"> 授業の振り返りを毎回の授業で行うことで、自分の学習状況や次の課題を把握させます。 課題を解決するために、練習の場を自分で選んだり、工夫することを決めたりして思考力を養います。 朝の時間や休み時間に、向上心をもち、子ども自身が工夫して取り組んでいけるような運動の場を設置し、日常的に運動に親しみ、楽しみながら体力向上に励む子どもを育てます。 	

昨年度改善プラン成果と課題

低学年：音楽活動に興味・感心が高い児童が多く、歌唱やリズム打ちに意欲的に取り組む姿勢が見られました。




中学年：歌唱やドラムサークルの活動に意欲的に取り組みました。鍵盤ハーモニカやリコーダーの他、様々な打楽器を演奏し、聴く力や主体性を育むことができました。

課題は、音符や楽譜にもっと親しみ、音楽づくりの活動に生かすことです。

高学年：合唱や器楽合奏に積極的に取り組み、学校行事等で、堂々と演奏することができました。

課題は、友達と協働して音楽活動を行う中で、互いのよさを取り入れて、豊かな演奏表現につなげることです。

	児 童 の 様 子	改 善 の ポ イ ン ト
1・2年	<ul style="list-style-type: none"> 歌や楽器に興味をもち、意欲的に音楽活動に取り組もうとする児童が多く見られます。 拍の流れにのって歌ったり演奏したりする活動を通して、友達と合わせる力や、互いの歌声・楽器の音色を聴こうとする力が育っています。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習形態（ペアやグループ等）を工夫し、児童が楽しく授業に取り組めるようにします。 自然でかみのない声と正しい音程で歌えるよう繰り返し指導し、鍵盤ハーモニカの正しい運指やタンギングをしっかりと身に付けるよう一人一人の個別指導にあたります。
3・4年	<ul style="list-style-type: none"> 明るく元気な声で、のびのびと歌うことができます。 3年生は、打楽器や鍵盤楽器の他、今年度から始まったリコーダーの演奏に、意欲的に取り組んでいます。 4年生は、拍にのり、リズムがピッタリと合う心地よさを味わいながら、楽器で演奏することができます。 楽譜を見て階名唱したり、リズムを手拍子したりして旋律の特徴をつかみ、主体的に学習に取り組んでいます。 	<ul style="list-style-type: none"> グループごとに演奏を発表したり、聴き合ったりする機会を増やします。 楽器に親しむ中で、楽器の音色や音符の長さについて、体験的に学ぶことができるよう指導します。 音域を広げ、自然で無理のない、響きのある声で歌えるよう発声指導します。 小さなつまずきを見逃さず、必要があれば、休み時間等に個別指導を行います。
5・6年	<ul style="list-style-type: none"> 音楽活動に進んで取り組む児童が多いです。 5年生は、柔らかな響きのある声で歌ったり、きれいな音色でリコーダーを演奏したりすることができます。 6年生は、器楽合奏に関心が高く、友達同士教え合ったり励まし合ったりしながら、各自練習に励んでいます。 楽曲に合った表現の工夫について、グループで演奏したり、話し合ったりして学習を行っています。 	<ul style="list-style-type: none"> 和音の構成音を重ねて歌ったり、ハーモニーのよさを感じながら演奏したりできるよう、指導します。 歌唱や器楽におけるつまずきを把握し、発達段階や個に応じた指導を行います。 主体的、協働的に演奏に取り組み、友達と互いに高め合うことができるよう、読譜力を養います。

	具 体 的 な 改 善 策	
1・2年	<ul style="list-style-type: none"> 体を動かす活動を取り入れ、リズムや拍感を身に付け、楽しみながら歌ったり演奏したりできるように指導します。 授業の中で様々な学習形態（ペア・グループ活動等）を設定します。 	
3・4年	<ul style="list-style-type: none"> リコーダーでは、児童が進んで取り組むことができるよう、平易な作品を多く扱います。運指や音色について、細かく机間指導します。 繰り返し練習を行い、友達と演奏を互いに聴き合う機会を増やします。 ドラムサークルの活動を通して、楽器に親しむことができるよう指導します。色々なリズムを即興的につくって演奏したり聴いたりして、音楽性と主体性を育みます。 既習の音符や音楽記号を用いて、簡単な楽譜を書く活動を取り入れます。 	
5・6年	<ul style="list-style-type: none"> 歌唱では、腹式呼吸を用いながら発声指導を行っていきます。高学年になると児童によっては高音が出しにくくなるので、頭声発声の他に胸声発声も取り入れる、オクターヴ下を歌う等、発達段階や個に応じた無理のない指導を行います。 日々の学習の中で、わらべ歌や外国の民謡を題材に、ハーモニーの美しさや、強弱表現のよさや面白さを味わわせながら指導します。 器楽合奏において、楽器パートの役割や演奏方法について学び、友達と協働して表現の工夫を行い、豊かな演奏へつなげます。 合唱や器楽合奏への取り組みを通して、読譜力や表現力を育み、主体的に音楽活動に関わる素地を養います。 	

図画工作




昨年度改善プラン成果と課題

低学年：日常的にはさみ、のり、絵の具セットなどの基本的な用具の使い方を指導し、造形活動への意欲・関心を高め、楽しみながら活動することができました。意欲を維持しながら、引き続き指導していきます。

中学年：材料、用具を選択できるように指導を工夫したことで、自分で取捨選択し、思考しながら造形活動に取り組めるようになりました。自他の良さに気付ける鑑賞活動をしたことで、作品のよさや面白さを見付けることができました。発想が思い浮かばず、活動することをあきらめてしまう児童もいるので、導入時に工夫が必要です。

高学年：今まで学んできたことをさらに深められるように表現方法や材料などに幅をもたせたことで、自分らしい表現を見付け、つくる喜びを感じ取ることができました。さらに自ら考え、判断しながら進めることができるようにしていきます。

	児童の様子	改善のポイント
1・2年	<ul style="list-style-type: none"> ・関心・意欲をもって楽しみながら活動しています。 ・題材に応じて、想像力豊かに造形表現することができます。 ・自分や友達の作品から面白さやよさを楽しんでいます。 ・早く完成させてしまい、それ以上作品の工夫や改善をすることが出来ない児童がいます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態や季節に合わせた題材を設定し、児童の意欲をさらにもたせます。 ・児童がイメージをふくらませやすいように、多様な資料や材料を用意します。 ・より自分の作品に対して愛着がもてるような導入の仕方や友達の工夫を見せながらより満足感のもてる作品ができるようにします。
3・4年	<ul style="list-style-type: none"> ・関心・意欲が高く、つくることや表すことを楽しんでいきます。 ・友達の作品に関心をもって、自他の違いや発想の良さや面白さに気付きながら、鑑賞しています。 ・自分の表現に自信がもてず、描くことやつくることをあきらめてしまう児童がいます。 ・やりたいことが思い浮かばず、手が止まってしまう児童がいます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・造形への意欲を高められるように学習の導入を工夫します。 ・ワークシートを用いながら、作品を見たり、話し合ったりして多様な発想や表現、自他の良さに気付け、言葉で表現できる活動を行います。 ・友達との鑑賞活動や身近な造形作品の鑑賞を通して様々な表現を知り、自分の表現活動に自信がもてるようにします。 ・教科書や参考作品を例示しながらやってみたいことを思い付くことができるようにします。
5・6年	<ul style="list-style-type: none"> ・造形活動に関心をもち、作品が完成するまで根気よく取り組むことができます。 ・客観的に自分の作品を見つめたり、作品の良さや違いを感じ取ったりしています。 ・その都度教師に聞いてしまい、自ら考え、判断することが出来ない児童がいます。 ・周りの人と同じ表現に頼ってしまう児童がいます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の児童が特性を生かした活動ができるようにするために、学習活動や表現方法などに幅をもたせるようにします。 ・ワークシート等を用いながら、鑑賞活動を行い、自分の考えをもたせるようにします。 ・手順を説明し、自分一人の力でできるようにします。 ・友達と相互鑑賞することで自分の表現に自信をもたせるようにします。

	具体的な改善策	
1・2年	<ul style="list-style-type: none"> ・紙、粘土、はさみ、のりなど基本の材料や用具を、年間を通じて楽しく、正しく、安全に使用できるように計画を作成します。 ・活動の参考になるような写真や資料などを豊富に用意し、意欲を高めます。 ・友達の作品のよいところを見付け、伝え合う活動を通して、自分の作品のよさや面白さに気付く鑑賞の時間を設定します。 ・児童にとって親しみのある名前を付けたり、身近な材料を扱ったりして、かくことやつくることの楽しさを味わわせながら、造形活動への満足感を高め、粘り強く作品をつくることできるようにします。 	
3・4年	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態に応じて、年間計画を立て、導入では、児童が楽しいと感じたり、面白いと思ったりするような工夫をして、造形活動に意欲がもてるようにします。 ・ワークシートを用いて、友達の作品から、よさや面白さを造形的な視点をもって、鑑賞できるようにし、自分の言葉で伝えたり、発表したりできるようにします。 ・友達の作品を見る機会を増やしたり、身近な造形作品を鑑賞したりすることで、多様な表現に気付かせ、自分の表し方に自信がもてるようにします。 ・大型ディスプレイでデジタル教科書を表示したり、教師が参考作品を提示したりしながら発想を促し、自分が表したいことを見つめることができるようにします。 	
5・6年	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで経験した材料や用具を再度扱うことで、材料の工夫や用具の取り扱い方に慣れ、つくりたいことに合わせて、取捨選択できるようにします。 ・見る視点を書いたワークシートを記入させ、自他の違いや工夫を見付け、尊重することで、鑑賞の能力を育みます。 ・手順を板書したり、説明したりしながら、自ら考えて活動を進めることができるようにし、つまづいているときには児童とともに最善策を考えながら、自らの力で完成させることができるようにします。 ・身近な作家の作品の鑑賞活動を取り入れながら自分の表現に広がりをもたせたり、友達との鑑賞活動をしたりしながら自分の作品に対して自信がもてるようにします。 	



昨年度改善プラン成果と課題

児童が家庭科で学んだことを、自分の「仕事」として家庭の中で生かして、継続して実践できるようになってきました。さらに、家族の中の自分の存在や役割について意識を高め、自ら役立とうと行動する児童が増えました。家庭の協力を得ながら、児童一人ひとりが家庭実践を繰り返した成果があらわれてきました。

裁縫学習では、細かな作業や応用的な技能の習得状況に課題があります。

	児童の様子	改善のポイント
5年	<ul style="list-style-type: none"> 家庭の仕事に興味を持ち、意欲的に学習や実習に取り組む児童が多くいます。 家庭での調理経験がある児童は比較的多いですが、裁縫の経験がある児童は少なく、家庭科で初めて針を持つという児童が半数以上います。 家庭にIH調理機が広く普及してきており、ガスコンロを使えない児童が増加傾向にあります。 話し合い活動の際、自分の考えをすすんで発表できる児童が増えつつあります。 	<ul style="list-style-type: none"> 繰り返し練習させることで技能を着実に身につけさせ、全員が自信をもって実習に取り組めるようにします。 用具の正しい名前と安全な使い方を繰り返し指導します。必要に応じて動画や画像を用いて、児童の理解を促します。実物投影機も活用し、実習の手順や手元の動きが全員に見えるようにします。 全員にガスコンロの正しい使い方を確実に身に付けさせ、換気等を含めた火気を取り扱う際の注意点も指導します。 相手意識をもった言語活動を充実させていきます。また、これまでの経験や情報で予想できることはないかを考えさせていきます。
6年	<ul style="list-style-type: none"> 計画を大切にし、自分なりの工夫を加えて実習に臨む児童が増えてきました。自分の工夫を加え取り組んでいます。 自分の考えを発言する際、これまでの学習や家庭での経験を踏まえて説明できる児童が増えました。 家庭科で学んだことを生かして、毎日や週1回など、定期的な自分の「仕事」として取り組む児童が増えました。 	<ul style="list-style-type: none"> 見通しをもって計画的に取り組むことを重視して指導します。内容によって様々な活動を行います。 児童の学習や生活経験を大切にし、様々な学びを結び付けながら、要点や理由を明確にして説明する表現力を育てます。 今後も家庭と連携しながら、児童の家族の一員としての役割意識を高め、仕事として家事に取り組む力を育てます。

	具体的な改善策
5年	<ul style="list-style-type: none"> 今年度の調理実習は実施できませんが、安全で衛生的な調理の仕方を指導します。実習前の調理計画の立て方を段階的に指導し、食材や調理法に合った手順や用具を考えられるようにします。 裁縫実習は、製作過程が段階的に理解できる教材・教具を取り入れます。また、家庭で長く活用できる作品を製作し、児童が作品に愛着をもって、完成に向けて意欲と技術を高めようとする学習にします。 消費・環境の学習「生活を支えるお金と物」や、持ち物の片付けの学習「整理・整とんで快適に」を通して、児童が環境や物や金銭について見つめ直す学習をします。特に、自分の持ち物への所有感や愛着、家族への感謝の気持ちを高めます。 一度学習した裁縫の技能を、違う単元や題材などで繰り返し学べるよう、2学年間を見通した学習支援をします。
6年	<ul style="list-style-type: none"> 6年生になり初めての学習は、「わたしの生活時間」です。まず、それぞれの生活時間を書き出し、表にまとめることで、見直しをします。次に家族とのふれ合いを増やす工夫の一つとして、家での朝食づくりへの実践へと進めていきます。 生活環境を考える学習として手洗いで洗濯実習や、掃除の実習に取り組ませて、日常生活にも活用できる知識を身に付けさせていきます。 裁縫実習では、雑巾・ティッシュケース・エプロン・三角巾づくりを通して、様々な素材や道具を使いこなす学習に取り組ませます。 中学校との内容のつながりを意識します。継続して学習するもの（例えば、調理用具の扱い方やミシンの扱い方）は、小学校段階で確実に習得するものを明示し、意図的に練習ができる教材を選定します。



研究

昨年度改善プラン成果と課題

平成30年度から令和2年度まで、東京都教育委員会及び大田区教育委員会の教育研究推進校として、ESDについて研究をしました。昨年度は、研究発表を行いました。総合的な学習の時間と生活科を中心に、地域を教材にすることや、児童が自分ごととして学ぶことなどを重視し、学校全体でカリキュラム・マネジメントに取り組むことができました。教科教育の中で、育成を目指す能力・態度を育成することが今後の課題です。



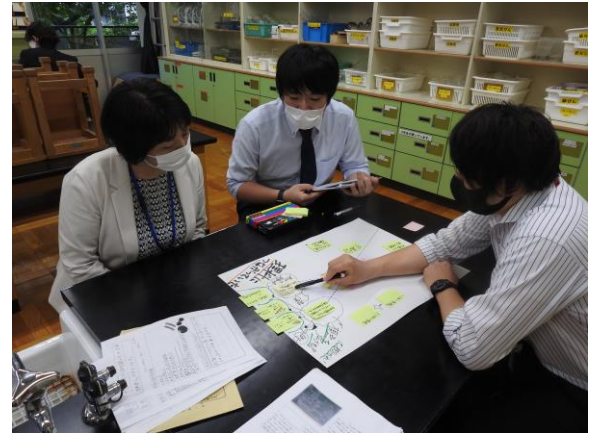
研究主題

多面的、総合的に考える力の育成
～理科、生活科の指導の工夫を通して～

研究主題設定の理由

育成を目指す児童の能力・態度

ESDの視点に立った学習指導で重視する「7つの能力・態度」のうち、本校独自の「ESDアンケート」の結果から課題と捉えた「多面的、総合的に考える力」に焦点化して育成を目指すこととしました。



研究対象とする教科について

教科教育の中で能力・態度を育てることの必要性を共有しました。そこで、今年度は、理科及び生活科の指導に焦点化し、教科教育の中で能力・態度を育成する指導の手だてを見いだすことを目指します。



研究協議会の様子です。

研究の方法

事前模擬授業を行い、児童の思考の流れを体験的に理解し、授業改善に生かします。研究授業及び協議会を通して、指導の手だてについて検討します。

「校内研究だより」を発行し、本校の研究の取組について発信します。各学年の研究授業を中心に、年6回の発行を予定しています。

「ESDアンケート」を児童向けに実施し、児童の能力・態度の変容を捉えます。



事前模擬授業では、教員が児童の立場になって、授業改善につなげます。



たてわり班活動（異学年交流）を通して

上級生は、下級生に対して優しく接したり、一緒に行う遊びを計画したりする中で、上級生としての自覚や、学校をよりよくしようという意識が芽生えます。自分たちの計画で下級生たちが楽しそうにしたり、下級生から感謝の気持ちを伝えられたりすることで、さらにその意欲を強め、自己肯定感を高めています。下級生は、そのような上級生たちの姿に憧れをもち「いつかは、先輩たちのように学校を引っ張っていきたい」と、意欲を高めています。また、自分たちにできることを一生懸命考え、取り組むようになり、経験も自己肯定感を高めることにつながっていくと考えています。

なかよしタイム

今年度は、兄弟学年で休み時間に遊べるよう計画しています。定期的に兄弟学年が集合して関わることで、より早くお互いの顔を覚え、普段から上級生や下級生を意識するように取り組んでいます。



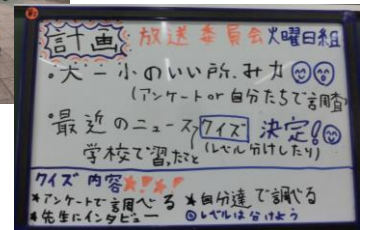
昼のたてわり班活動（今年度は2学期から実施予定です。）

兄弟学年で、「ふれあい活動（上級生による本の読み聞かせや、折り紙教室など）」「ふれあい清掃（兄弟学年で校内の清掃）」の2つに分かれて活動しています。なかよしタイムよりも、上級生が事前に準備・計画をすることが多く、活動後は満足そうな様子が見られました。



委員会活動

代表委員会による朝のあいさつ運動やユニセフ募金など、各委員会が、大森第一小学校をより良い学校にするために、日々の活動を振り返って話し合ったり、できることに取り組んだりしています。お知らせ集会では、日ごろの活動や、委員会からのお願い、委員長としての決意など、各委員長がリモート放送で全校に紹介していました。



クラブ活動

自分たちの好きなことを、同じことが好きな友達同士で集まり、行うことで、その活動に対する自信をもつことができます。6年生は、4,5年生が楽しく、意欲的に活動できるように、日々活動計画を立てて、積極的に取り組んでいます。4,5年生は6年生の手本となる姿を見て、できることから始めようとするなど、他学年で交流し合う姿が多く見られています。



学級活動

学級の友達と話し合ったり、話し合っただけを決めたことを実践したりすることを通して、自治的・主体的な態度を育てています。



こどもまつり（平成31年度）

4月から学んだことを振り返りながら、学年でテーマを決め、各学級の学級会で出店の内容を相談して決めました。各学級が工夫を凝らしたお店を出店しました。この活動の中で、協力しながらお店の準備をしたり、店番をしたりすることで、学級や学年の人間関係をより豊かにすることや、異学年と交流しながらお互いの努力を認め合うことができました。また、学校生活をより楽しく豊かなものにしようという態度も育むことができました。

こどもまつりは、サンドアート集会と2年に1回周期で行っているため、今年度は10月にサンドアート集会を予定しています。

